



PICK UP 青葉山新キャンパスに整備中のサイエンスパーク

(1) ゲートウェイカレッジ

国際卓越研究大学構想の一環として、2027年4月に新設する学部教育プログラム。総合型選抜により学部を定めずに入學し、日本人学生と外国人留学生が主に英語で学ぶ国際共修環境や、入学後に専門を選択する「レイトスペシャリゼーション」を導入。大学院進学を前提とし、最終的には優秀な博士人材を世に送り出すことを目標に掲げている。

(2) 青葉山新キャンパス

青葉山キャンパスに隣接し、農学研究科、災害科学国際研究所などのほか、留学生と日本人が混住するコニバーシティ・ハウス青葉山、保育所、図書館等が整備された一つの「まち」として機能している。その中に、産学官金が結集し、大学とともに研究開発から事業経営、制度設計まで社会価値創造を行う「サイエンスパーク構想」が本格始動している。



※一部CGによるイメージ

初の「国際卓越研究大学」に認定
未来を創出するゲートウェイとして
「知」を加速し、世界を動かす

教育・研究の場に多様な交流が広がっている

SUMMARY

1907（明治40）年、日本で3番目の帝国大学として創設された東北大学。「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を建学の理念に掲げ、世界水準の研究教育を展開しており、2024年には「国際卓越研究大学」第1号に認定されました。「インパクト」「タレント」「チェンジ」の3つのコミットメントのもと、世界に伍する新たな大学を目指して先導的な改革を進めています。

東北大学は、日本で初めて女子学生が誕生した大学としても知られています。「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）」の実現に取り組み、女性や若手研究者に活躍の場を提供するとともに、グローバル人材の育成に努めています。

とみながていじ
富永 倬二 総長

1982年東北大学医学部医学科卒業。87年米国フィラデルフィア生体膜研究所留学。東北大学大学院教授、同大学病院長、理事・副学長などを経て2024年より現職。

01 3つの「コミットメント」と
教育・研究・運営体制を改革

北大学は開学以来、研究と教育を一体のものとして位置づけ、優れた研究に裏打ちされた教育を目指す大学として、世界最高水準の研究・教育を創造してきました。富永総長は、「1907年の創設以来、研究第一、門戸開放、実学尊重の理念のもと、多くの人材を輩出してきました。国際卓越研究大学の第1号に東北大学が認定されたことは、本学にとって歴史的にインパクトのあることです。研究力向上には研究と教育のシステム改革、そして学内の経営運営の体制の変革が必要で、それらを含めた、新しいタイプの国立大学への進化が求められています」と語ります。

東北大学の計画では、3つのコミットメント「インパクト（未来を革新する社会価値の創造）」「タレント（多彩な才能を開花させ未来を拓く）」「チェンジ（変革と挑戦を加速するガバナンス）」のもと、全方位の国際化など6つの目標達成に向けた戦略を策定。特に、研究力強化の中核として、全組織の戦略的人事を統括する「HCM（Human Capital Management）室」を設置し、優秀な人材獲得を強力に推進。また、ガバナンス改革の一環として2025年4月に「グローバル戦略室」、同年10月に「データ戦略室」を設置するなど、大学の体制強化を図っています。

02 大学ランキングで1位
ゲートウェイカレッジ新設へ

育面や国際性に焦点を置いた「THE E日本大学ランキング2025」で東北大学は5期連続1位を獲得したほか、「THE世界大学ランキング」でも前年の120位から103位へと躍進を遂げました。

要因と疾病の関係性の解明に関する研究と、その成果の臨床実装を推進しています。

東日本大震災を経験した東北大学は「災害科学国際研究所」を設立し、地震後の海底地殻変動の様子を解明するなど、実践的防災学を先導しています。この知見を世界に還元すべく、2026年4月、大学院に、世界初となる修士および博士（災害科学）の学位を授与する「災害科学コース」を新設しました。

一方、東北大学は破壊的イノベーションの創出に挑む若手研究者の育成を目指す「東北大学若手躍進イニシアティブ」を宣言。学生から若手まで切れ目なく支援しています。2026年4月には、新たな博士課程学生支援として「東北大学高等大学院LEAPプログラム」を創設し、原則として、すべての博士課程学生に研究奨励費を支給、加えて授業料免除等の経済的支援を行うなど、研究に専念できる世界トップレベルの環境を整備しています。

04 社会との共創を目指して
サイエンスパークの整備

学尊重の根底にあるのは、社会や生活に広く貢献できる大学としての存在を目指すということです。このため、東北大学では、「社会との共創」をテーマにさまざまな取り組みを行っています。

青葉山新キャンパスでは、産学官金が結集し、社会価値創造を行う共創の場「サイエンスパーク構想」が本格始動し、2024年4月より運用を開始した3GeV高輝度放射光施設「AnoTabaru（ナノテラ）」を核に、多様な分野で産学共創が加速しています。これに加え、福島県浜通り地域と連携した「FUKUSHIMAサイエンスパーク構想」を推進し、被災地から世界へ課題解決モデルを発信しています。

学部教育では、英語4技能と国際コミュニケーション力を重視し、言語や文化の異なる学生同士が協働学習を行う「国際共修科目」を数多く提供。また、「挑戦カレッジ」ではグローバルリーダー育成プログラムや、SDGsプログラムなど5つのテーマで実施しています。

さらに、国内外から多様な優秀な才能を獲得するため、2025年4月に「アドミッション機構」を設置。2027年度には、国際的に活躍できる能力を育む「ゲートウェイカレッジ」を新設します。英語で学ぶ国際共修環境や、入学後に専門を選択する「レイトスペシャリゼーション」を導入し、多角的視点と柔軟な思考力を養う新たな教育モデルを構築します。

「海外を経験することは、これからのグローバル社会には必須です。ゲートウェイカレッジでも、短期間でも全員が海外を経験できるようにします。総合型選抜では、選考から入学までの期間を活用し、海外に行ってもらったことも構想しています」と富永総長は説明します。

03 世界水準の研究を推進
若手研究者支援も充実

国際卓越研究大学への認定に象徴されるように、東北大学は世界水準の研究を展開。2024年には世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）として「変動海洋工システム高等研究所」（WPI-AMEC）を設置。海洋研究開発機構と共同で、人間社会に役立つ海洋生態系の変動予測の実現を目指します。

また、個別化医療・個別化予防を柱とする未来型医療の実現を目指す「未来型医療創成センター（INGEM）」では、世界でも有数の15万人規模のデータを蓄積する東北メディカル・メガバンク機構と連携し、遺伝要因・環境

05 門戸開放の理念受け継ぎ
真のDEI実現目指す

本で初めて女子学生を受け入れた東北大学は、「門戸開放」の理念を創立以来体現しています。「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン（DEI）、多様性・公平性・包摂性の意」推進センターや「工学系女性研究者育成支援推進室（ALICE）」を設置し、学内に国内最大級の保育所※を設けるなどしてきました。2022年には東北大学DEI推進宣言を発表し、2025年度からは女性研究者を対象としたヘッドハンティングや11部局での女性限定国際公募を新たに開始し、意思決定層への女性参画や多様な才能の活躍を強力に牽引しています。

富永総長は「国際卓越研究大学に認定され、世界最高水準の研究大学を目指すとともに、真のDEI実現に向けて積極的に取り組んでいます。女性の活躍はもちろんのこと、学生から研究者まで性別や国籍、民族、文化の異なる多様な多彩な人材が集まることで東北大学の教育・研究が発展していきます。少子化の流れの中で一人ひとりの教育の質を高めるために奨学金制度を含めたシステムづくりも進めています。

いま東北大学は、国際卓越研究大学としての3つのコミットメントを掲げ、世界にその魅力を発信しています。教育と研究を通して、ある分野において非常に影響力のある人、リーダーシップを発揮する人、人の心を熱くする人、そういった魅力ある人を世界に送り出していく場にしたとと考えています。東北大学は、みなさんのすべての可能性に寄り添います。世界に挑戦するゲートウェイにもなれる大学です。ぜひ本学での学びを通して世界に羽ばたいてください」とエールを送っています。

（※）大学が学内に設置する保育所間での比較。3か所（青葉山みどり、川内けやき、星の子保育園）合計の受け入れ人数は国内最大級。